共立女子大学　看護学部　カリキュラム・ツリー

ディプロマ・ポリシー

DP1	幅広い教養
	看護の対象となる人々と社会を多角的に捉えるための幅広い教養を身につけている。
DP2	自然科学的・臨床医学的知識
	科学的根拠に基づき、看護を通じての安全・安全に実践するための専門的知識と情報・科学技術を活用する能力を身につけている。
DP3	人間科学的・社会的科学的知識
	看護の対象となる人々を生涯にわたって捉え、生活とその基盤となる社会を理解するための専門的知識を身につけている。
DP4	倫理観、自律性
	人々の尊厳と権利を擁護する姿勢、自己に厳しい倫理観に基づき、自律的な判断のもと行動することができる。
DP5	コミュニケーション能力、看護技術
	看護の対象となる人々の健康課題に対して、ケアを行うためのコミュニケーション能力と看護技術を身につけている。
DP6	多職種・多領域連携
	地域包括ケアシステムの中で、多職種・多領域と連携・協働して支援を行うなど、看護職が果たすべき役割を理解している。
DP7	アセスメント力、洞察力
	看護の対象となる人々の健康課題、心身の状態、生活状況から健康課題をアセスメントし、適切性に応じた安全な看護ケアの計画立案・実施・評価を行うことができる。
DP8	社会貢献の実践・開発
	看護の対象となる人々を取り巻く環境（家族、地域の特性、社会資源）を把握し、健康課題に応じて、多職種・多領域と連携・協働して社会資源を活用・開発するための計画を立案することができる。
DP9	研究能力、自己研鑽
	社会的ニーズと将来の展望に基づき主体的に学習し、課題を明確化するための基礎的研究能力と、自己研鑽して看護的・医療的な社会への貢献を目指す態度を身に付けている。
DP10	チームワーク、リーダーシップ
	看護の対象となる人々や保健医療福祉チームのメンバーと信頼関係を構築し、目標設定及び解決のために、他者の考えを理解し、自身の考えを述べることができる。

教育課程

教養教育科目

CP1

学生を、ひとりの女性・ひとりの人間として自律できる人材、すなわち日々の生活を豊かに充実して送ず、主体的に社会に参加・貢献して責任ある役割を果たす人材として育成するために、「自律と知コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップ」を設ける。

- DP1：教養教育科目

専門基礎科目

CP2－1

専門基礎科目においては、看護学を学修するための基礎・基盤となる知識・能力・倫理を養成する。具体的には、看護の対象である人間や、健康生活を取り巻く社会環境などについて理解することを目標とし、「人体の構造と機能」、「病態と治療」、「看護の基盤」、「社会と医療」に分けて、1・2年次を中心に配当する。

1）人体の構造と機能：環境と相互作用しながら変化していく人体の構造・機能を学ぶことを目標とし、8科目を配置する。

2）病態と治療：発症する病気の病因・病状や症状の特徴、必要な検査、及び治療について学ぶことを目標とし、6科目を配置する。

3）看護の基盤：看護の本質を理解し、看護実践に必要な基礎的理論および基本的なコミュニケーションについて学ぶことを目標とし、5科目を配置する。

4）社会と医療：保健・医療・福祉の制度や理念、人々の健康を保持増進するための地域社会の役割及び地域社会の健康状態を把握し、多職種と連携していくうえで必要とされる知識・能力を養成することを目標とし、6科目を配置する。

- DP2：自然科学的・臨床医学的知識
- DP3：人間科学的・社会的科学的知識
- DP4：倫理観、自律性
- DP5：コミュニケーション能力、看護技術
- DP6：多職種・多領域連携
- DP7：アセスメント力、洞察力
- DP8：社会貢献の実践・開発
- DP9：研究能力、自己研鑽
- DP10：チームワーク、リーダーシップ

専門展開科目

CP2－2

専門基礎科目は、専門的職業人として必要とされる看護学分野の専門的な知識と技術、倫理の修得を目標とする。特に、「援助演習」「実習」科目では、グループワークを活用し、チームワークにあふれる協働とリーダーシップを養成する。

1）基礎看護学領域の科目・健康生活を支えるための看護技術の原理と基礎を学ぶための「基礎看護学I領域の科目として、1・2年次に配当する。

2）各専門領域における発展援助の学習、看護対象者のライフサイクルや健康課題に応じて行う看護活動の基礎を学ぶために、「地域・在宅看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」領域の科目を1年次から4年次まで配当する。

各分野領域において、「講義」科目の構成を大きく「概論」「援助論」「援助演習」「実習」の4段階に分類する。

「概論」においては、各ライフサイクルにおける看護対象者の特徴や、健康課題の特徴、健康の阻害要因のための社会的取組み、疾病へ向けた看護対象者へのアプローチの基盤となる理論等、各専門領域の全体を俯瞰した基礎的な知識を修得する。

「援助論」においては、「概論」で学んだ知識を基盤として、対象者の健康上の課題を捉え、看護援助の具体的な方法、看護過程について修得する。

「援助演習」においては、「概論」及び「援助論」で学んだ知識を基盤として、具体的な事例を扱う中で、学内において援助技術を身に着けるための演習を行う。

3）総合技術演習（OSCE）：3年後期からの各専門領域の実習開始前に、これまで学んだ知識・技術・態度を総合した臨床能力を客観的に評価し、臨床実習に臨むにあたり足りない点の学生が自己の臨床能力の課題を把握することに、必要な学習に主体的に取り組めるようにするために、「総合技術演習（OSCE）」を5年次前期に配置する。

4）看護研究法：将来にわたり自己研鑽を継続し、看護実践のための専門性を発揮させるために、問題解決能力・問題提起能力・問題分析能力・論理的思考力・倫理的思考力・情報収集・情報処理・情報活用・情報発信・情報管理・分析・評価・表現・コミュニケーション・プレゼンテーション・協働・リーダーシップ・マネジメント・自己管理・自己研鑽・生涯学習・生涯教育・専門職者としての自覚・使命感・倫理観・社会的責任・社会貢献・国際貢献・社会人としての教養・豊かな人間性・高い倫理観・自己を律する力・自己を高める力・自己を磨く力・自己を表現する力・自己を発信する力・自己を管理する力・自己を評価する力・自己を教育する力・自己を研鑽する力・自己を成長させる力・自己を変革する力・自己を変革する力・自己を変革する